いたZん ニュース

ITAMISHI KONCHUKAN NEWS

第6号 2006/2

特集 ちょうちょの卵大集合

伊丹市昆虫館

ほっとパーク昆陽池

夜に観察できる虫たち

昼間は多くの人でにぎわう昆陽池公園も、夜はひっそりと静まりかえっています。とくに北側の林とそこを通るふるさと小径は、午後５時から翌朝９時まで閉鎖されています。林の中には街灯もありませんので、町の中とは思えない真っ暗闇です。これは、そこに暮らす生き物たちが暮らしやすいようにという配慮からです。

伊丹市昆虫館と友の会では、以前から昆陽池公園の昆虫を調べてきました。しかし調査は主に昼間です。昆虫の仲間には、昼間はものかげで休んで夜に活動する、いわゆる「夜行性」の種類が多くいます。２年前、企画展「秋の鳴く虫」で紹介するため、昆陽池公園に暮らすコオロギ、キリギリスの仲間を夜に調べました。その結果、これまで記録がなかった種類も多く見つかりました。このことがきっかけとなり、定期的に夜間の昆虫調査をおこなうことになりました。現在も月に１回、昆虫館のスタッフと専門家が共同で夜間に調査をおこなっています。ここでは、その調査で見つかった昆虫たちを紹介しましょう。

ガの幼虫の死がいを食べるオオホソクビゴミムシ（10月28日）

ガの幼虫を捕食するカレハヒメグモ（4月22日）

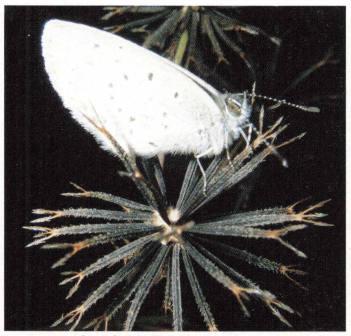
昆虫館屋上から見た夜の昆陽池公園の林（3月4日）

これまでたくさん見つかっているのは、私たちが最初に調べだしたコオロギ、キリギリスの仲間のほか、ガや、ゴミムシなどです。2005年の12月までで、173種の昆虫が記録されています。

よく見られる虫を少し紹介しましょう。夜に活動する種類が多いガの仲間は、チョウと同じ仲間なのに人間には嫌われていますが、夜にはチョウと同じように花のみつを吸っている姿が観察でき、ほほえましく見えます。冬だけに成虫が見られるフユシャクなどもいます。もちろん、明かりにも集まります。街灯が少ない昆陽池公園では、公衆トイレは光がある貴重な場所。ガだけでなくいろんな虫が集まり、カメムシやハチなどもここでよく見つかります。ゴミムシの仲間はふるさと小径の真ん中を、わが物顔で歩き回っています。園路にある虫の死体を食べているところにもよく出会います。

夜の観察の面白いところは、昼間に見つかりにくい種類が出てきているだけではなく、食事をしているところなど、昼間ではなかなか見ることがないシーンに出くわすことです。そのほか季節によって、セミの羽化や、落ち葉で冬越しするチョウの幼虫が木を降りてくるところなどにも出会いました。普段と観察の仕方をちょっと変えてみるだけでも、新たな発見がたくさんあるものです。（坂本　昇）

ふるさと小径での夜の観察調査の様子（11月22日）



コセンダングサの種の上にいたヤマトシジミ（11月22日）

サザンカの花からみつが出ていました（12月28日）

むしムシ虫眼鏡

Vol. 6 カマキリちゃうんちゃう？

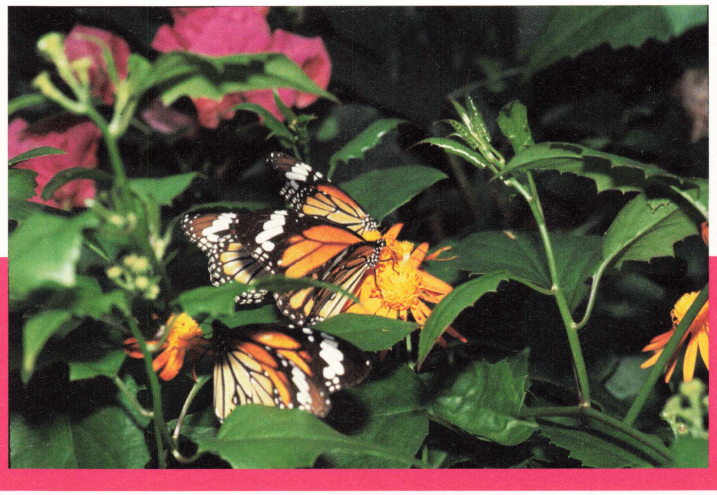
前脚や頭部はカマキリに似て、後半身はクサカゲロウのよう、模様はなんだかハチみたい。その名はキカマキリモドキ。彼らはクサカゲロウやアリジゴクの成虫のウスバカゲロウの仲間です。成虫の出現期は６月～９月、カマのような前脚で生きている昆虫類を捕まえ、食べています。さて、成虫以上にもっと不思議なのは幼虫のくらしです。彼らのエサはクモ類の卵。そのエサにたどりつくために「過変態」を行います。過変態とは、１齢幼虫と脱皮した後の幼虫で著しく形態がちがう変態のことです。卵からふ化した１齢幼虫は、メスのクモの体にくっつき、クモが卵のうを作る時に潜り込むものと、卵のうを探し当てて入り込むものがあるようです。そのために１齢幼虫は移動能力が高い体の形ですが、いったんクモの卵のう内に潜り脱皮をすると、体が太く脚が大変短いウジ虫のような体になり、ひたすらクモの卵を食べ続けます。そして卵のうの中で蛹になり、脱出して羽化します。カマキリモドキの仲間について、そのくらしや生態はまだまだ未解明なことが多いようです。（角正美雪）

＜キカマキリモドキ＞
学名：*Eumantispa harmandi*
分類：アミメカゲロウ目カマキリモドキ科
開長：30～50㎜

亜熱帯の温室から

Vol. 6 復活したオレンジ色の花

冬の貴重な蜜源になっていたメキシコ原産のメキシコサワギクは、平成11年頃、他の植物に埋もれるように滅びてしまいました。それからずっと探していたこの花の入荷情報が、昨年の３月にありました。過去２度の知らせで仕入れた花は別物で、くやしい思いをしていたのですが、やっと本物に出会えました。昨年５月、この花をイメージして建て直したアーチに蔓を誘引したところ、夏の光を浴びてぐんぐん成長し、昨年11月、明るいオレンジ色の花をつけました。見慣れない花に、最初はそっぽをむいていた沖縄生まれのチョウ達も、ほのかな香りに誘われるように集まり始めました。流行らない園芸植物はすぐに市場から消え去ります。チョウ温室に欠かせない草花は、大切に育てなければならないことを痛感させられた植物です。（後北峰之）



＜メキシコサワギク＞
学名：*Senecio confusus*
分類：キク科

特集【ちょうちょ～チョウ温

伊丹市昆虫館のじまんは、何といっても『チョウ温室』です！ハイビスカスやブーケ
を目の前で観察できる、本当に素晴らしい場所なのです。このチョウ温室の中では、
りますか？今回の特集では、チョウ温室のチョウたちの小さな卵の姿を、最新の機材

チョウもいろいろ・卵もいろいろ

チョウは、それぞれ決まった種類の植物にだけ産卵します。この植物は、卵から産まれた幼虫の「餌」になるため、「食草（しょくそう）」と呼ばれます。チョウのお母さんたちは、自分の子どもが餌に困ることのないように、たくさんの植物の中からちゃんと食草を探し出し、産卵するのです。小さなチョウの卵は、人間の目ではどれも同じような小さな粒にしか見えません。でも、拡大して観察してみると、チョコレートみたいで美味しそうな卵、サボテンみたいにトゲだらけの卵、そしてまん丸お月様みたいな卵など、いろんな姿をしているのです！

◎ オオゴマダラの卵

オオゴマダラの卵

クリーム色をしたオオゴマダラの卵は、てっぺんが丸いドーム型で、よく見ると表面が格子状にデコボコしています。リュウキュウアサギマダラやツマムラサキマダラの卵とよく似ていますが、さらに大きく、日本最大級の大きさを誇るオオゴマダラの卵にふさわしい、横綱のような存在感があります。

＜卵データ＞　卵の大きさ：幅 1.2mm　高さ 2mm
食草：ホウライカガミ　ふ化日数：約６日

ジャコウアゲハの卵

シロオビアゲハ（左）と
ナガサキアゲハ（右）の卵

◎ ジャコウアゲハの卵

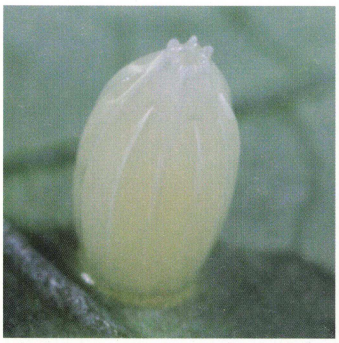
美味しそうなチョコレート色の卵です。全体的にほぼ球の形をしていますが、てっぺんにはとがった部分があり、どことなくキューピーさん人形の髪の毛に似ています。

＜卵データ＞
卵の大きさ：：幅　1.4mm　高さ 1.4mm
食草：ウマノスズクサ　ふ化日数：約５日

◎シロオビアゲハ（左）とナガサキアゲハ（右）の卵

どちらも黄色でまん丸、まるでお月様のような卵ですが、白っぽくて小さい方がシロオビアゲハ、大きい方がナガサキアゲハの卵です。卵の大きさのちがいは、そのままチョウ（成虫）の体の大きさの違いです。

＜卵データ（シロオビアゲハ）＞
卵の大きさ：幅　1.3mm　高さ 1.2mm
食草：カンキツ類　ふ化日数：約４日
＜卵データ（ナガサキアゲハ）＞
卵の大きさ：幅　1.8mm　高さ 1.7mm
食草：カンキツ類　ふ化日数：約５～６日


ツマベニチョウの卵

クロテンシロチョウの卵

◎ ツマベニチョウの卵

純白ですらりとした、なんだか気品のある姿をした卵です。卵のてっぺんの形が、どことなく王冠に似ています。

＜卵データ＞
卵の大きさ：幅　1.0mm　高さ 2.0mm
食草：ギョボク　ふ化日数：約４日

◎ クロテンシロチョウの卵

チョウ温室で最も小さいチョウだけあって、とっても小さな卵です。形はツマベニチョウの卵と似ていますが、透き通った水色をしているところが違います。

の卵大集合
室へん～

ビレアなど亜熱帯の美しい花が咲き乱れ、チョウの飛翔や花のみつを吸う様子
15種類のチョウがくらしていますが、みなさんはその『卵』を観察したことはあ
で撮影した拡大写真で紹介します。

こうご期待！企画展「むしのあかちゃん」

＜卵データ＞
卵の大きさ：幅　0.5mm　高さ 1.5mm
食草：ギョボク　ふ化日数：約４日

リュウキュウムラサキの卵

コノハチョウの卵

◎ リュウキュウムラサキの卵

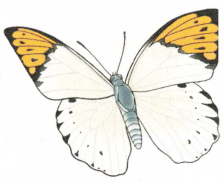
光沢のある青緑色に、10本の白い縦筋が鮮やかな卵です。樽のような形をしていて、海にいるフジツボや食べ物のシュウマイに形が似ています。

＜卵データ＞
卵の大きさ：幅 0.7mm　高さ0.7mm
食草：サツマイモ　ふ化日数：４日

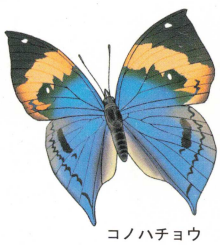
◎ コノハチョウの卵

リュウキュウムラサキの卵と似ていますが、ひとまわり大きくて、球に近い形をしています。縦筋も14本と多く、リュウキュウムラサキの兄貴分といった感じの卵です。

＜卵データ＞
卵の大きさ：幅　1.2mm　高さ　1.2mm
食草：オキナワスズムシソウ　ふ化日数：６日

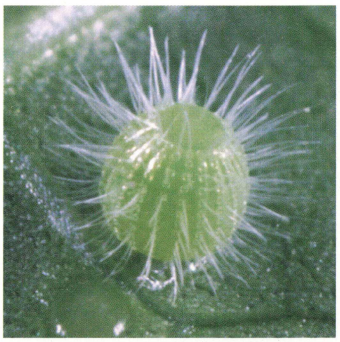

ツマベニチョウ

シロオビアゲハ


コノハチョウ

◎ カバタテハの卵

卵の表面からトゲのような毛がたくさん伸びていて、まるでサボテンのような卵です。面白い事に、ふ化した後の卵の殻にもちゃんとトゲが残っていて、生まれたばかりの幼虫の餌になっています。


カバタテハの卵

＜卵データ＞
卵の大きさ：幅　0.7mm　高さ　0.7mm　刺の長さ　0.4mm
食草：ヒマ　ふ化日数：４日

カバタテハのふ化

◎ こうご期待！企画展『むしのあかちゃん』

今回紹介したチョウの卵の写真は、平成18年３月１日（水）開催予定の企画展『むしのあかちゃん』の展示のために撮影したものです。チョウの卵以外にも、いろんな昆虫の卵や幼虫を紹介します。驚きと発見がいっぱいなので、是非見に来てくださいね！

会期：３月１日～５月８日　場所：昆虫館２階第２展示室

さいきんの

ミツバチを狙うカマキリ

ミツバチの巣箱のひさしに陣取っているハラビロカマキリ

学習室の窓の外側にセイヨウミツバチの巣箱が設置してあります。（巣箱の詳細は「いたこんニュース」５号P.5を参照してください。）ミツバチが巣箱を出入りする様子や巣箱内部の様子が観察できるので見学者に人気のある展示となっています。

９月下旬頃にオオカマキリのメスが、１ぴき巣箱に来ましたが、２，３日するとどこかに行ってしまいました。10月初旬には巣箱の日よけにしてあるすだれに１ぴきが住み着くようになりました。ここに居るとミツバチの食べ放題です。どのミツバチを食べようかといつも身構えていました。１日に３，４ひきを食べているようで、おなかがまるまると太ったオオカマキリになりました。スズメバチが巣箱に来たときは、さすがのカマキリもすだれの隅の方に身をかくしていました。10月末にすだれに産卵をしてどこかに飛んでいきました。

オオカマキリがいなくなるのを待っていたかのように、今度はハラビロカマキリのメスがやってきました。毎日ミツバチ２，３ひきを食べているようでした。カマキリがミツバチを捕らえて食べるのは来館者が少ない時間帯でした。11月中旬にオオカマキリのたまごと少し離れたところに産卵をしてどこかに行ってしまいました。（石川義正・河上仁之・斎藤義郎）

近隣昆虫館との昆虫の交換について

現在（2005年12月）、生態展示室で展示しているゾウカブトムシは、橿原市昆虫館からやってきました。とても立派なゾウカブトムシを２ペア（オス２匹、メス２匹）と沖縄地方にくらすコブナナフシ35匹を10月20日に受け取りました。２種類とも当館では飼育していない新しい種類です。コブナナフシはまだ幼虫ですが、みなさんに見てもらう日も近いでしょう。

橿原市昆虫館からやってきたゾウカブトムシ

昆虫の飼育は、調子の良い時や悪い時、なかなかうまく飼育できない種類などがあります。このような時には、昆虫施設連絡協議会に加盟する昆虫館や時には遠方の博物館と連絡を取り合い、協力しながら昆虫類の維持をはかっています。

つまりピンチな種類を受け取り、逆に調子が良くたくさん飼育している種類を送って交換しているのです。当館からは、特に安定して飼育・繁殖できているチョウ類の卵や幼虫などが送られます。新規の展示や系統維持のためのこのような交換は、いきものを飼育・展示するうえでとても重要なことです。（角正美雪）

橿原市昆虫館からやってきたコブナナフシ

飼育室から

チョウの「雑種」でました！

伊丹市昆虫館では１年中チョウを飼育し、毎日飛ばしています。そのなかで、一風変わった蝶が羽化しました。幼虫の時はクロアゲハだと思って飼っていたチョウなのですが、羽化してみるとシロオビアゲハに似ていて、でもそれとも少し模様がちがいます。スタッフも首をひねっていたのですが、アゲハ類の専門家に見ていただいたところ、クロアゲハとシロオビアゲハの雑種であることがわかりました。温室で交尾したようなのですが、シロオビアゲハは、開館以来15年、クロアゲハも２年ほど飼い続け、雑種が出たのは初めてです。しかしこの２種は分類学上も近い仲間で、自然界でも雑種の記録があるそうなので、生まれるべくして生まれたのかも知れません。残念ながらこの雑種はオスしか生まれてこないそうで、繁殖能力もないようです。

雑種は16匹生まれたのですが、昆虫館では貴重な例なのですべて標本にしました。４月24日まで、特別に公開いたします。せっかくですので一度見にいらしてください。

（坂本　昇）

シロオビアゲハ

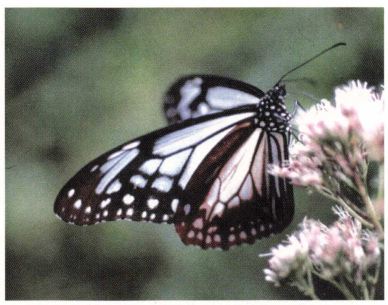
シロオビアゲハとクロアゲハの雑種

クロアゲハ

昆虫館でひと休み。旅をするチョウ

アサギマダラというチョウをご存じですか？淡い水色の地に茶の模様が入ったきれいなチョウです。アサギマダラは春から夏にかけて日本列島を北上し、秋頃に再び南下することが知られています。夏場には涼しい山頂でヒヨドリバナという花のみつを吸う姿が見られます。ゆっくりはばたき空を滑空する様子はとても優美です。このチョウがどれだけの距離を移動しているのかを調べるマーキング調査には、全国各地の方々が参加しています。発見したアサギマダラを捕まえ、はねにマジックで印をつけて放します。マークされたチョウが、別の場所で再び捕獲されると、その間の移動距離がわかるしくみです。昆虫館前の花壇にも５月頃に北上するアサギマダラが、秋頃に南下するアサギマダラが立ち寄ります。マークのないチョウがほとんどですが、昨年10月27日に当館受付スタッフが、フジバカマに舞い降りたチョウを捕まえると、はねにマークがあったのです！番号を調べてみると10月13日に隣街の池田市五月山で放されたことがわかり、移動距離は６キロでした。このチョウは再びマークされ放されました。無事に旅を続けていれば遠く南西諸島の方に到着しているかも知れません。ちなみに現在アサギマダラマーキング調査の移動最長記録は2002年福島県から八重山諸島までの2140キロです。もしアサギマダラを見かけたらはねにマークがないか確かめてみてください。新記録が出るかも知れません。

（野本康太）



ヒヨドリバナのみつを吸うアサギマダラ

再捕獲されたアサギマダラ

バタフライガーデン冬花壇完成！

昆虫館玄関前にバタフライガーデン（チョウを呼ぶための花壇）ができました。伊丹市公園緑化協会スタッフとフラワーリーダー同好会３期生の方々の協力を得て季節に応じた草花、チョウが好んでみつを吸う草花を中心に花壇をデザイン、管理しています。冬の間はチョウはやって来ませんが、ビオラでかたどったチョウと、キアゲハのモニュメントがお客さんの目を楽しませてくれています。（野本康太）

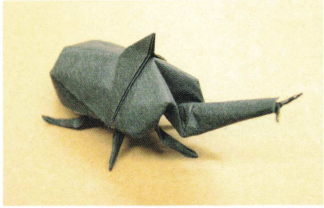
パスポートのデザインが新しくなりました

有効期間中、何度でも昆虫館に入館できる「昆虫館パスポート」を、平成18年も販売します。今度はかわいいテントウムシが目印で、昆虫館受付で申し込みできます。昨年度から継続して利用される方は、申し込み時に古いパスポートをお持ち頂ければ、手続きが簡単になります。ぜひご利用ください。（奥山清市）

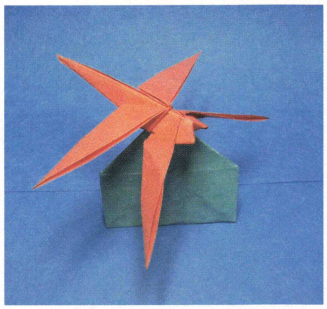
大人	中高生	3才～小学生
1500円	500円	300円

「虫のおりがみ２」発売！

好評の「虫のおりがみ」の第２弾ができました。前作とは全く違う、11種12作品の折り方がのっています。昆虫の紹介ページもパワーアップしました。前作よりやさしい作品が多くのっていますので、初めての方はこちらから挑戦してください。１冊1000円、伊丹市昆虫館とＪＲ伊丹駅構内の伊丹市観光物産協会で販売しています。通信販売もおこなっています。（坂本 昇）



カブトムシ（世浪 健 創作）



アカトンボ（土戸英二 創作）

もよおしあんない

2月
- 12(日)　昆虫折り紙アート講座
- 18(土)　ふれあい体験「むしさんこんにちは」

3月
- 12(日)　昆虫折り紙アート講座
- 18(土)　ふれあい体験「むしさんこんにちは」

4月
- 9(日)　昆虫折り紙アート講座
- 15(土)　ふれあい体験「むしさんこんにちは」
- 15(土)　春のはらっぱで昆虫探し　予約制

5月
- 13(土)　ヤママユ飼育講習会①　予約制
- 14(日)　昆虫折り紙アート講座
- 14(日)　ミツバチ観察会①　予約制

6月
- 上旬　ホタル観察会　予約制
- 4(日)　ミツバチ観察会②　予約制
- 10(土)　猪名川のいきもの観察会　予約制
- 11(日)　昆虫折り紙アート講座

特別展
- 7/19～9/3　いたこん☆カーニバル2006～ファイナル（仮称）～

企画展
- 3/1～5/8　むしのあかちゃん
- 4/26～7/10　出版記念　虫のおりがみ2
- 5/10～7/10　虫のうんこ染め

プチ展示
- 4/26～6/19　毒虫

講習会・観察会の申込方法

くわしい内容は…
- 伊丹市内に在住の方
  広報伊丹をごらんください。
- 伊丹市外に在住の方
  電話でお問い合わせください
（講習会・観察会の実施日の約1ヶ月～2週間前までにお問い合わせください）。
＊広報伊丹は実施日の約1ヶ月前に掲載します。
電話でのお問い合わせは掲載以降に案内いたします。

申し込むには…
- 往復ハガキに記入し、お送り下さい（締切日必着）。
  ＊講座により申込方法が異なる場合があります。
- 申込多数の場合は抽選になります。
- 受講の詳細は、返信用ハガキでお知らせします。

〒 返信	参加希望の講座名 参加希望者全員の名前（ふりがな）・学年（年齢） 住所 電話番号
あなたの住所 氏名	

〒664-0015 往信	伊丹市昆陽池3-1 伊丹市昆虫館 行	何も書かないでください

編集スタッフより

今年は雪が多く寒さも厳しいようです。カマキリの卵のうを眺めながら、春を待ちわびている今日この頃です。（野本）
今号は冬ということで白い表紙になりました。寒い中でも昆虫館は暖か。元気な昆虫のすがたを見にいらしてください。（坂本）

次回（第７号）発行は、2006（平成18）年７月ごろの予定です。

表紙写真：オオゴマダラのふ化　撮影：奥山清市

いたこんニュース　第６号　Vol.3　No.２（通巻６号）
2006（平成18）年2月発行
発　行　伊丹市昆虫館
〒664-0015 伊丹市昆陽池3-1 昆陽池公園内
TEL：072-785-3582 FAX：072-785-2306
URL：http://www.itakon.com/
E-mail:ge7n-skmt@asahi-net.or.jp
編　集　野本康太　坂本 昇
デザイン原案　pico*pictuers
印　刷　商工印刷株式会社